

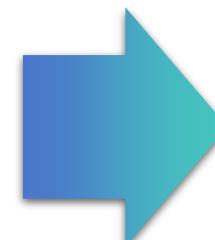
課題

少子化の影響：少子化の進行に伴い、生徒数・教員数が減少しつつあり、各学校でのチーム編成や顧問配置に工夫が必要
特に吹奏楽部では、編成の選択肢が限られるなど、技術の継続的な育成が課題



取り組み

運営体制の構築：邑楽町教育委員会（学校教育課・生涯学習課）が中心となり、首長部局の財政課が支援
地域クラブ活動の運営を地元の「邑楽町民吹奏楽団」に再委託



大型楽器の運搬問題：活動場所が学校から離れた公民館となるため、休日に保護者が大型楽器を運搬・返却する必要があり、大きな負担に

休眠楽器のリユースによる負担解消：小学校の吹奏楽活動縮小で生じた状態の良い休眠楽器を回収・メンテナンス
これらの楽器を地域クラブ活動場所（中央公民館倉庫）に保管し、生徒が利用可能に

成果

保護者の運搬負担が大幅に軽減
金管楽器担当生徒はマウスピースのみ持ち運べば活動可能に
地域クラブ活動への参加ハードルが解消



生徒の成長と満足度向上

- **参加者の満足度 100%**：令和6年度アンケートで、参加中学生の100%が「平日は学校部活動、休日は地域クラブ活動がよい」と回答
- 少子化で難しかった**大人数での合奏機会が増加**
- 年間約5曲ほど練習曲が増え、生徒の技術面が向上。地域の方との交流を通じて人間的な成長も実感

運営面の工夫

- 生徒の声を反映し、「練習曲が難しすぎる」という意見に対し、パート別練習時間の確保や、協議会での方針確認を実施
- 「邑っ子フェス 2024」など**地域のお祭りやイベントに積極参加**し、発表の場を確保

失敗談・改善事例

- **地域指導者と学校の連絡手段の確立**：Google Classroomでの連携が難航 → 共有ドライブを活用しつつ、今後は教育委員会が指導者用アカウント提供を検討
- **練習計画のズレ**：指導者側の計画と、顧問・生徒の希望との間にズレが生じた → 協議会での情報交換を強化し、生徒や学校の意向に寄り添った計画を継続的に検討予定
- **技術的な差の発生**：休日の活動に参加できていない生徒と参加できている生徒の間で技術差が出始めた → 平日の学校部活動において、個々の生徒の状況に配慮した指導を行う必要がある

今後の展望

- 地域連携・地域移行を**持続可能なものとするため、参加生徒をさらに増やす**。参加ハードルを下げる工夫を重ねる
- 保護者の負担を考慮しつつ、持続可能な運営のための**適切な会費設定**を検討
- 学校教育と社会教育が両輪となり、文化芸術活動に取り組める環境を保障する